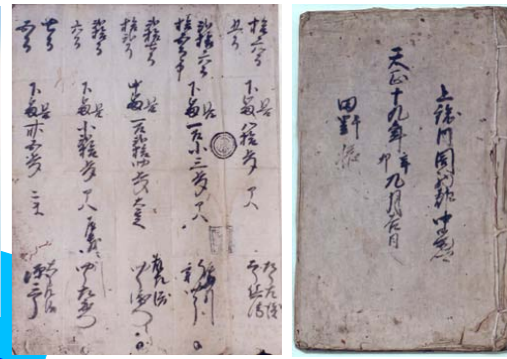


# 古文書が今に伝える 中富

## 小糸川・お日待ち・くらし



至中野

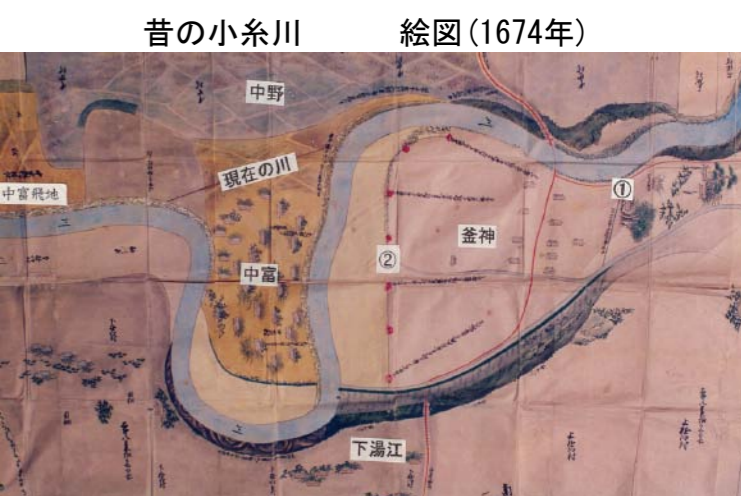


### 中富の年中行事

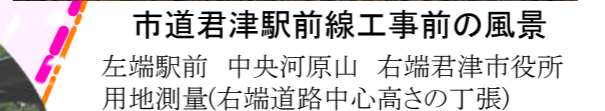
1月1日	石上神社初詣
1月	新年会
	お日待ち
	古峯神社代参くじ引き
1(2)月	芝焼き
2月11日	転読大般若会
3月	総会
	馬頭観世音菩薩供養
3(4)月	用水堰止め・水路掃除
5月	早苗ぶり
6月	古峯神社代参
6(7)月	土手の草刈り
7月	宮雑ぎ
8月	いやさか君津踊り
8月16日	山門大施食会
10月9日	石神社大祭
10月10日	馬頭観世音菩薩供養
11(12)月	お日待ち
12月9日	献穀祭
満月	百万講

### くらしを支えた副業

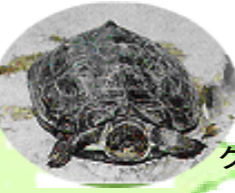
- 飴づくり 40軒  
古くは1843年の商人規定書に記されている(古文書) 昭和16年頃まで造っていた。貞元地域誌に「飴商い小話」が二話掲載されている。
- 養蚕  
明治の中ごろ始まったと伝えられ昭和15年頃まで40軒近くが飼育していた。現在の公会堂は雅蚕飼育所を改装した。
- 甘藷(さつまいも)  
大正時代から多くの畑で栽培、近くに出荷。昭和30年から40年代半ば頃まで約40軒で生産組合を組織、東京市場に出荷していた。



400年前は釜神(上の①)付近から江川に合流。300年前は上絵図の形態。宝永元年(1704)現在の形態。延宝2年(1674)貞元村と中富村の境界と定められた河原山1.2km(上の②赤い点)その一部に新しい道が通る。昔の河原、川跡等を小字で示しているのも興味深い。



江川のカメについて



江川はクサガメとイシガメ(子供をゼニガメともいう)の2種類が多く生息。クサガメの甲羅は中央と左右の3本の隆起、後側は滑らか、首に黄色の模様があるのが特徴的です。イシガメの甲羅は中央に1本の隆起、後側はギザギザです。江川では春から夏は水位(灌漑期)が高いので広く分布し、秋から冬は、土手が削られてできた横穴で越冬しますので偏って分布します。江川での伝統的な用水の利用方法がカメの生活とよく適合しているものと思われる。